

第4期多摩区区民会議 第6回コミュニティ部会 摘録

□開催日時	平成25年7月26日(水) 午後6時00分～8時15分
□会場	多摩区役所10階第1002会議室
□参加者	辻野部会長、松本副部会長、国保委員、小塚委員、戸高委員、配島委員(以上、コミュニティ部会員) 石橋委員(以上、自然災害部会員)
事務局	門間課長、井川係長、奈良職員
コンサルタント	斉藤研究員
傍聴者	1名

1 審議テーマの取組内容について

配布資料「区長への結果報告までの具体的な道筋を見通し、作業を進めよう!」、「第6回コミュニティ部会メモ」について部会長から説明があり、4つの「具体的な取組」についての議論を行った。

辻野部会長 部会メモ9ページにあるように、11月26日のフォーラムではどのような問いかけをするのか、それに向けてどのような具体的作業が必要なのかを念頭に浮かべながら、議論していただきたい。まず「(1) イベントカレンダーの作成」についてアイデアや意見を出していただきたい。イベント情報の収集について、これまで話題にのぼった項目が挙げられているが、これについて何か意見はあるか。

事務局 自治会・町内会へのアンケートは自然災害部会でも聞きたい項目があり、それと併せて実施することになるため、项目的にはあまりたくさんすることは聞けない。この項目を聞くのであれば、次回8月の部会で具体的な質問の文章と回答の選択肢を議論することになる。

配島委員 あまり詳しく聞いても、それを整理分析するのも大変だし、この項目でちょうどよいと思う。

戸高委員 一般の人が参加できるものについて情報を収集する考え方で聞けば、これでよいと思う。

松本副部会長 ほかに地域教育会議のイベントも載せればよいと思う。例年テーマを決めてやっているが、今年の稲中の場合は子どもとその親たちが興味を持っている“ライン”について話をしてもらおう。

戸高委員 それは他の中学校区の人でも参加してよいイベントなのか。

松本副部会長 教育会議の会議の場合はそのメンバーしか参加できないが、イベントの方はたくさんの人に来てもらいたいはずだ。講師も張り合いがある。

戸高委員 他地域に開かれたイベントをやっているということですね。

松本副部会長 そうです。この会合に地域の人がたくさん来てくれればよいと思っている。

配島委員 7つの中学校区でそれぞれ子どもたちのことを考えてそれに相応しいイベントを企画しており、その時は自分の中学校区以外の人たちに来ていただきたいと考えている。

松本副部会長 前回の資料にそうした多くの人たちに来てもらいたいイベントについては挙げられていたはずだ。

事務局 前回配布したものは過去の活動報告なので、今年度のを改めて調べないといけない。

石橋委員 稲田中学校のように毎年定番のようにイベントをやっている学校区と毎年異なるこ

とをやっているところや立て直し中の中学校区がある。これまでの資料から拾うというのはなかなか難しい。

事務局 もう一度調べなおしましょう。

松本副部長 7校にそれぞれ幹事があるので、それらの幹事に聞くのがよい。

事務局 幹事の方々を調べて聞くことにします。

石橋委員 市民館大ホール開催イベントは膨大な数になると思われるし、載せていいかどうかの確認など手間が大変になる。区主催、区後援のものに絞ってはどうか。

配島委員 区の子育て祭りといった内容に絞るとよい。

事務局 すべてではなく、区が関わっているものを中心に絞ります。

石橋委員 カレンダーに載せるものは定例的にやっているものにしないと、一過性のものや実施時期があまりに不規則なものは適さないだろう。

配島委員 多摩区が発行することになるのだから、基本的考え方として多摩区や区民が深くかかわっているものを優先したほうがよいだろう。

辻野部会長 では掲載の基準、形態、周知方法、更新時期などについて話し合おう。

松本副部長 情報が集まってからでないと、考えるのが難しい感じがする。更新の時期は1年に一度だけだとやりっぱなしと受止められる。ある程度新しい情報も載せた方がよいので、半年に1回程度は更新したほうがいいのか。内容を更新していないホームページを見ると、これは信頼できないと、見る方の期待が薄れる。

石橋委員 それは誰がカレンダー作成をするのかという問題と関係がある。

辻野部会長 かなり情報が集まる感じがして、整理や選択にパワーが要りそうだ。それを誰がやるのかということだ。事務局はどう考えるか。

事務局 提言をするまでの、いくつかの時点でどうするかを考えることになる。目指すべき理想の姿は適宜更新されて最新の情報になっている方がよい。11月のフォーラムのときにはある程度の情報を紙ベースのカレンダーとして載せるとして、その情報集めは大変だったし、情報を選択するのも大変だった。それを踏まえたときに、今回は紙ベースで出したが情報量が多い場合は、インターネット上でホームページに載せた方がよいとか、紙で出し続ける場合は、どんな方法があり、ネット上に公開する場合にはどんな作業が必要になるなどという、思考の過程で適したものを選んでいかなければいけない。また、例年第○曜日に実施するという書き方では自分自身としても、参加する気持ちにはなかなかならない。情報の載せ方ひとつを考えても、実際には今後困難なことは控えている。

辻野部会長 紙ベースであれば、印刷費用もあるし、年一回程度だろうか。発行日と連絡先を書いておけば、第○曜日と書いていても、関心のある人は連絡先に問い合わせることで情報を確認できる。理想は随時情報をメンテナンスして最新の情報として載せるのがよいのだが。

松本副部長 情報が集まってからでないと考えにくい問題もある。もし区役所のホームページに載せることになれば、更新は誰がすることになるのか。区の場合はそれぞれの区の担当者がやっているのか。業者に依頼するのか。

事務局 業者ではなく区の担当がやっている。ちなみに市のホームページは基本的に行政情報を発信するためのツールですから、地域の祭りとか市民活動団体の情報は載せられない。ですからネットで発信する場合には、どんなやりかたでその情報を載せるかという問題も提起しなければならない。

松本副部長 ネットに載せる場合は市のホームページではなく、別途手段を考えないといけないということか。区内のイベント情報サイトを作って、リンクすることはできるのか。

事務局 リンクすることはできる。カレンダー情報がどれだけのボリューム感があるか。また

イベント情報以外のリンクすべき情報がどれくらいあるか、それについてはどうするかという問題も出てくる。またインターネットを使えない人に対してはどうするかという大きな問題もある。企画課としては、もしこれだけのイベント情報をネット上で毎月管理していくことを考えると、かなり困難性がある。イベントをやっている人たちが自分で管理するようにするとよい。地域ポータルサイトというサイトを作れば、地域や店の情報をそれぞれの人があるところをポートにして、発信していくことができる。宮前区はそれを“宮前ぼーたろう”という名前で作っているが、ニュースはあまり入っていない。しかしそういうコンテンツはあるので、多摩区にそういうサイトができて、さらに更新されればよいと思う。場所を用意してもそれが更新されないという意味がないので、更新が大きな課題だと思う。

辻野部会長 今日、イベントカレンダーについては、情報収集・選択だけでなく、形態や発行者、更新時期などを検討しなければいけないということを確認して、ほかの取組についても話合わなければいけない。

松本副部会長 確認しておきたいのだが、アンケート調査は次回の8月の部会までの間にするのか。

事務局 次回8月の部会で具体的な質問項目・選択肢を確認し、その後に自然災害部会の内容と併せてアンケートを行う。アンケート結果の整理は11月のフォーラムに間に合うように行うことで考えている。

辻野部会長 次に、取組項目(2)の市民館デーへの参加について議論を行う。提供ゲームは囲碁、将棋、トランプでいいか。

国保委員 これでいい。子ども区民会議の子どもたちは区民会議をやっている時間以外には他のイベントに参加できるのか。

配島委員 子ども区民会議に参加する子どもたちは14時からの区民会議に間に合うように召集しているので、他のイベントに参加するのは難しい。私の方で子どもたちに10時からこんなことをやっているという誘いをかけることはできる。区民会議には菅中のコーラス部の方々が20~30名が13時半から合唱に参加するので、その中学生にも事前からマジックなどを行っていることを知らせることはできる。子ども区民会議としては中学生に声を掛けているが中学生は部活などで忙しく、小学生の参加が中心となる。その小学生を5~6人のグループ4つにわけて、自然災害やコミュニティについて議論してもらおうと考えている。その各グループに、自分から意見を言うわけではなく、基本的には子どもの話を聞いておいて、あまりにも議論が逸脱したり、混乱した場合に軌道修正する役割の大人の方が、区民会議から2名入っていただけないかと考えている。

石橋委員 子ども区民会議から区民会議への呼びかけは、オブザーバーとして意見はいわずに黙って聞くという役目だといわれたが、ファシリテーター的な役割を果たすというのは、話が変わったということか。

配島委員 当初の設定と異なって、子ども区民会議に参加していただく子どもたちがほとんど小学生になってしまい、子どもだから場合によってはあまりにも極端に脱線してしまうことや、子どもたちが大人に聞いてみたいことも出てくることもあるかと思う。その場合に、意見をいうというよりは、子どもが話やすい雰囲気を作っていただく役割をお願いしたい。

松本副部会長 その場合、子どもと大人の情報量は全く違って、大人がしゃべると子どもがしゃべれなくなる恐れもある。

配島委員 子ども区民会議に参加する子どもたちには、会議の運営は自分たちでするといっているので、子どもたちも基本的には自分たちで進めることだとはわかっている。まとめ

や発表もすべて子どもたちがやる。その時にそのテーブルについていてくださる大人がいて、子どもたちが必ずしも発表しなかったことでも、ふれておくべきことがあれば、フォローしていただく役割も期待している。私たちも、大人がそばにいいのかどうかと正直、思ったが、中学生があまりにも少ないので、子どもたちが暴走する可能性もある。暴走して悪いとは思わないのだが、あまりに違う話になって收拾がつかなくなるのも気がかりであり、やさしく見守る大人がグループの脇に座っていてくれる方がよいかと考えた。

石橋委員 私が子ども区民会議に参加する場合は、ひとつのグループだけの話ではなくて、すべてのグループの話を渡り歩こうと思っていたが、それができないということだろうか。

配島委員 私どもは区民会議から二名だけがグループの脇に座っていただくことをお願いしたい。それ以外の方は自由にグループを回っていただいてもかまわない。

事務局 配島さんから今日新しく出てきたお話は、子ども区民会議として、区民会議から二名の委員だけにグループの脇についてもらいたいということで、それ以外の委員は自由に傍聴してもらってもいいということですね。このお話は全体会で委員に了承を得る話かもしれないが、市民館デー当日までは全体会が開かれないので、部会でそのお話を出して、各部会から一名ずつ出してもらいたいという話になるのであれば、コミュニティ部会と自然災害部会から委員を一名ずつだし、その決まった二名の方と子ども区民会議が打合せをし、子ども区民会議の中でどんな役割をしたほうがいいのか、悪いということを知ることが必要となる。それ以外の方は基本的に傍聴でよいということか。

配島委員 はい、そうです。

辻野部会長 配島委員の方からその一名を指名していただくのはどうか。

配島委員 辻野部会長、お願いいたします。

辻野部会長 わかりました。ではその役割を承ることにしましょう。

配島委員 ありがとうございます。ほかの委員の皆さんも自由に傍聴できますので、ぜひご参加ください。

辻野部会長 市民館デーで、この部会がどんなゲームをするかについては、これでよいか。

国保委員 この3つでよい。

事務局 これらのゲームを実際にどのようにやるかの点は、どうするか。

国保委員 入口に看板を置き、会議室内は机をコの字型に並べて、これらのゲームをセットしておき、入ってきた子どもがゲームをする。入ってきた人に対して誰も対応する人がいない場合は、私が対応する。

事務局 場だけを用意して、あとはフリーで入ってもらうスタイルか。

国保委員 そうだ。一人で入ってきた人に対しては、私が対応する。

松本副部会長 囲碁・将棋は段級があるが。

国保委員 それは自己申告にして対等にしてやらないといけない。

事務局 囲碁にも対応できるようにしたほうがよいか。

国保委員 囲碁が2~3段程度の人がいるとよい。

事務局 囲碁のセットは市民館にあるものを使うとして、将棋のセットは国保委員がお持ちのものを借りるので足りるか。

国保委員 4~5セットあるので、それで足りると思う。トランプも500セットくらいあるので10セット程度を置いておけばよい。基本的にマジック用だが、仕掛けがなにもないものがあるので大丈夫だ。

松本副部会長 開催している時間はどうか。その時間帯は囲碁将棋がなんらかできる人がいないといけない。

辻野部会長 大津委員長が囲碁将棋で知り合いの人がいる話をしていたので、確認しなければいけない。自分と事務局の両方から確認しよう。時間帯は対応できる人がいるかいないかで決まってくる。

事務局 用意した趣味に参加してもらう人は、市民館デーに来た人を誘うのか。それとも委員一人が何人連れてくるといった目標を決めるのか。よほどの魅力があるものは別にして、幅広いお知らせではなかなか人が来ない傾向にはある。

松本副部会長 第4会議室で行う内容はまだ広報していないのか。

事務局 プログラム全体としても、今いろいろ決めている段階なので、まだ、具体的な広報はしていない。内容を一瞥しただけでは子ども向けのものも多い。ただコミュニティ部会がふれあいの機会作りを試みにやってみようとなったのは、引きこもりがちなお年寄りをどう地域に引き出すかがテーマだった。その工夫がないと、囲碁将棋好きの方のためのスペースづくりになってしまう可能性がある。

松本副部会長 隣人に将棋好きであまり外に出ない人がいるから、その人に声を掛けてみるが、それ以外では一般的に碁や将棋が好きかどうかかわからない。誘うにはどうしたらよいか。

事務局 市民館デーは市民館を利用している人たちのふれあいの機会作りなのだが、普段市民館を利用したことがない人たちに、子どもたちともふれあえるし、他の趣味活動もたくさん出ているので、市民館にきてもらって互いにふれあったらどうかという日だ。チラシを作るなどして、とりあえず来てみませんかという声掛けをするということになるか。

戸高委員 人を誘うにはA4の半分くらいのものでよいから、チラシがあるとよい。町会で知らせてその人が子ども向けのトランプがあるなどとさらに子どもなどを誘って広げてくれるとよい。

辻野部会長 マンションの中でチラシを配ることを考えている。そのチラシを見た人が参加してマンションの人同士が知り合いになることもあるかもしれない。国保先生にはそうした参加者にアンケートをしてもらって、どんな時にどんなことをすればよいのかを探って、提言の内容を考えることにしてはどうか。

国保委員 それくらいの気持ちで一度やってみるのではどうか。

小塚委員 私たちの親の年代は囲碁将棋をやっているが、私たちの世代はあまりやっていない。昔は誰でも子どもだったし、今でもゲームをやれば子どもに返ることができる。囲碁将棋でも一度やってみれば、できるかもしれないし楽しいだろう。そんな誘い方をすると興味がわくかもしれない。子どもは親よりもおじいちゃんから遊びを覚えることが多い。

松本副部会長 確かに孫は私に将棋を教えてという。親とは時間がないのであまり遊べない。

辻野部会長 この活動に参加してもらうための誘いのチラシをつくることにする。

戸高委員 当日は1階でチラシを配る役をするので、他の方もぜひこの日は参加するようにしよう。

小塚委員 私もお手伝いする。市民館デーは子ども連れも多い。子ども支援室関係で活動している人たちもそれぞれ活動をしていて、結構にぎやかだ。

辻野部会長 飲み物・おやつはどうするか。

事務局 これだけの道具を置いたらあまりスペースがないので置くのは、やめましょう。

辻野部会長 当日は10時からなので準備のために部会メンバーは9時半集合にしよう。アンケートはどうするか。

戸高委員 簡単なものでよいから、するようにしたい。

コンサル A4 半分くらいのもので案をつくりまします。時間がないので部会長と打合せをして決めましょう。

辻野部会長 では取組 3 の農業・食育・健康のイベントについて議論する。他団体が 9 月 11 日、11 月 2 日にそれぞれイベントをすることになっているがこれにどうかかわるか。9 月 11 日はまちづくり協議会がやるものだ。

国保委員 ただ自然や農作物にふれあうだけで終わるのではなく、食育の話をさせていただくのは結構ですとのお話をしたことはある。

事務局 9 月 11 日のまちづくり協議会のイベントはこれから作り上げるイベントなので国保委員のお話を組込むことは可能だと本多委員が話していた。11 月 2 日の方は地域保健福祉課と JA でプログラムがすでに確定しているので、国保委員のお話を入込むことは難しいだろう。こちらのイベントにかかわるとすれば、参加者へのアンケートにこちらが聞きたいことをいれてもらって、提言につなげるヒントをもらえるかどうかということがある。

戸高委員 ニーズが探れるかどうかということか。

辻野部会長 こうしたイベントを体験するために、フィールドワークとして委員が参加するということもある。そういう活動をして、ニーズを探って白井委員へのヒアリングをするが挙げられているが、それも含めてご意見があるか。

国保委員 白井委員へのヒアリングというのはどういうことか。

事務局 白井委員はこのところ欠席が続いているので、農業・食育・健康というテーマのニーズ・状況を探って、聞くべきことを用意してヒアリングをすることがよいだろうと、これまで話し合われた。

辻野部会長 地域保健福祉課が JA 菅支店と協働で開催してきた活動を、他の JA でもやれるかどうかを白井委員に聞いてはどうかという話だ。

事務局 白井委員は最初の委員会で、農業・食育・健康にかかわる話で農業者としてやってみたいと発言をしていたし、JA が推薦した委員でもあるので、部会として JA を絡めて地域保健福祉課が行っている事業内容を拡大して行う提言をする場合に、白井委員の考えを聞くことが必要ではないか。

辻野部会長 地域保健福祉課の事業を真似た形になるかもしれないが、このような活動を他の JA にも拡大できるかを、JA 推薦の区民会議委員である白井委員に感触を聞くことをしたほうがよいだろう。あるいはどのような手立てをすれば、可能になるかのアドバイスをしてもらおう。

国保委員 個人農園での実施の可能性を探るといのはどういうことか。

事務局 以前の会合で白井委員が自分の農園を使って梨もぎをしながら何かしてもよいという意見を出している。もし JA を絡めた拡大が無理なのであれば、一農園主として農業・食育・健康の活動に農園を使える可能性があるのかどうか、あるいはそうした活動をしたと思う仲間が他にいるだろうかなどを、聞ける場合は聞いてみようということだ。

石橋委員 JA が組織を挙げて実施してくれるかどうかは決定に時間がかかることになるだろうが、個人としての参加の可能性を聞くことの方が話が早いかもしれない。個人農園の点が線につながれば、さらに可能性が広がる。

松本副部会長 もし白井委員が部会には忙しくて参加できないならば、正副部会長が白井委員を訪ねて聞くことにすればよいのかもしれない。

事務局 先ほどの 9 月 11 日のまちづくり協議会の方の活動には、国保委員は食育のお話で参加してもらおうのは可能だろうか。

国保委員 なんとかできるかもしれないが、以前は違う時間帯でやると認識していた。

事務局 可能性があるのであれば、本多委員と具体的に話していただくことでよいか。

国保委員 本多委員と直接話してみる。

戸高委員 参加者に、こうした活動をどう考えるかアンケートをしなければいけない。

辻野部会長 そのアンケート内容は次回に最終検討をしよう。次に4つ目のあいさつ運動の展開だが、自治会・町内会にラジオ体操の実施状況をアンケートで調べる案が出ているがどうか。

事務局 コミュニティ部会では人々が知り合いになる機会として体操があるという話を検討してきた。その中でもラジオ体操は多世代が参加できるよい活動だが、最近はやっているところが少なくなったようなので、その実態を調べようということだった。

しかし、自治会・町内会に状況を聞いてもあまり参考にならないのならば、ラジオ体操について聞くよりも、あいさつ運動の展開に活動を絞るという方向性もあるかもしれない。その場合、簡単な事例のタイトルをメモに挙げているが、多摩区としてはどんなあいさつ運動推進の仕方があるのか。

ラジオ体操についてのアンケートをすべきか、あいさつ運動のみの検討に絞るか、また、あいさつ運動につなげられる材料としてアンケートと運動の展開の両方をやってみるかという問題だと考える。

辻野部会長 最終的にあいさつ運動の推進の提案をするにしても、ラジオ体操のアンケートをひとつの材料としてやっておいたほうがよいのかという点についてはどう考えるのか。

石橋委員 ラジオ体操は確かにひとつの手段だ。しかし現状は別にして地域の多世代の人が集まる場がラジオ体操であった。ラジオ体操からあいさつにつながる要素があったのなかったのか。

松本副部会長 私の町内会ではラジオ体操をやるのは夏休みの最初なので、今日で終了した。そのときに「あいさつしよう」という呼びかけをすればよかったが、その機会がなかった。先日の老人会の旅行では知っている人同士はあいさつをするが、知らない人同士では意外とあいさつしない。そういう場でも、知らなくても一緒に行動するのなら「あいさつしよう」と呼びかけるとよいかも。そうすれば次にどこかで会ったときに話がしやすいかもしれない。私は知っている顔を見ればみんなあいさつをするが。

小塚委員 区役所の皆さんがどんどんあいさつをすれば感じがいい。区長さんがあいさつすると感じがいい。阿部市長の顔は知っているが、区長さんの顔は知らない。あいさつをすればもっと知られるようになるかもしれない。偉い人がどんどんあいさつをするようになればおもしろいし、それがあいさつ運動の早道かもしれない。(笑い)。

松本副部会長 役所のみなさんが元気にあいさつしていると、感じがいいし、仕事がどんどんできる感じがする。一旦、あいさつをしたことがあると、どこかで会ったときに話ができるようになる。人間はそういうものである気がする。

辻野部会長 ではあいさつ運動を進めるようにするというので、その裏付けとなるかもしれないアンケートについてはどうするか。それともこれはカットするという選択肢もあるかもしれないが。

戸高委員 アンケート調査をするのであれば、区民会議コミュニティ部会では、あいさつをすることが大事だと考えるが、みなさんの地域ではどれくらいあいさつができていないかを調査することは意味があると思う。しかしそれをどこに向けてやるかどうかはわからない。

松本副部会長 それを町会長の私のところに聞いてもらっても、確かにわからない。

石橋委員 アンケートをラジオ体操という切口ではなくて、昔は3世代の家族全員が参加してラジオ体操をやっていたのは、コミュニティが先にあつたからできたのだと考えれば、ラジオ体操よりもコミュニティの存在のあるなしがわかるような内容にして質問を組み立てた方がよいのではないか。アンケートはコミュニティのあるなしについて聞くこ

とにして、あいさつ運動とは切り離して考えてみればどうか。そうすれば、あいさつをしたら気持ち悪がられる社会なのかが見える。

小塚委員 会ったらハグする社会はどうか。みんな元気になるかもしれない。

辻野部会長 そんな社会になったらみんな健康で病人がなくなるかもしれない。

松本副部会長 石橋委員がいうコミュニティがあるかどうかという意味はどういう意味か。例えば町会や老人会では一種のコミュニティはあるとは思いますが、そこにあいさつがあるかどうかは多少わかるが、そこにコミュニティがあるかどうかを調べるというのはどういう意味か。

石橋委員 老若男女が集まる場がありますかを問う。その一つとしてラジオ体操をしているかを問う。老人会は老人だけの狭い会合だが、子ども会は親も参加するからレンジが広い。

小塚委員 老人会、子ども会、自主保育など、ありとあらゆる会を挙げておいて、○印をつけてもらうのはどうか。○印をつけた数の少ないところはコミュニティとしての関係が薄いし、○の数が多ければ、コミュニティがある。集合住宅で会合がないところは、コミュニティがない地域ということが明らかになる。

コンサル その集団のコミュニティのあり方の実態がどうなのかというのは、かなり膨大で詳細な内容で調べないと実証的なデータとして使えない場合がある。どの点をおさえることで、コミュニティの濃淡がわかるかどうかを考えないといけない。自然災害部会のほうでも自治会・町内会にアンケートをすることになっており、そこと併せて自治会・町内会にそれほど負担にならずに、かつ区民会議としての提案の裏付け材料として使えるものを行う場合、どれくらいの項目で抑えるかの詰めが難しい。

松本副部会長 先日も大学からアンケートが回ってきたが、アンケートに答える側としては、そんな質問は余計なお世話で、その質問に答えることでこちらにどれくらいのメリットがあるのか、そんなことを聞くよりも実際に町内会に来て手伝ってくれる方がよっぽどよいと思うものがたくさんある。われわれのためになるのならよいが、自分たちの研究のためにこちらがチェックされているようだ。アンケートは何日までに出してくださいと負担は大きく、嫌な気持ちになることがある。アンケートの結果がその後何につながるものなのか、また、我々にとっても参考になることがあるかどうかはわからないと、アンケートばかりが来ても、困ってしまう。石橋委員が発言したように、あいさつやコミュニティの問題で、ラジオ体操の点について聞くのは、ピントはずれに思われる危険性もある。答えないところも多くでてくるかもしれない。

辻野部会長 アンケートに回答する方は、これがどのような形でフィードバックされるかが納得のいく形で行われないと、疑問に思うかもしれない。

石橋委員 自然災害部会では関東で大きな地震があると予測されているにも関わらず、それへの意識が低レベルであると、ある意味では決めつけにもなる前提を置きながら、意識向上のためにはどうすればいいかを聞くことにしている。もう一つは、万が一何かが起こった場合に、互いが顔見知りでなかったら助け合いにはならないことを、阪神淡路大震災から 3.11 までを経験してわかったわけだから、その流れの中でお互いの関係はどうあったらよいかという問いかけがあり、その中で、イベントカレンダーがあり、みんなで集まろうということになったときに、ラジオ体操があるという考え方で今日まで来た。区民会議が問題にしてきた自然災害部会のテーマもコミュニティ部会のテーマも、今回は自治会・町内会が基本を担っている。キーマンは自治会・町内会しかない。これは松本委員を前にして申し訳ないけれど、自治会・町内会がバリアを張ってしまったら、提言で終わってしまう。

松本副部会長 提言の仕方だと思う。自治会・町内会も高齢化してしまっているいろいろな活動する

にも大変になってしまい、イベントするのも防災するのも顔見知りを作ることが大事でそれしかない、それがあれば子どももさらわれない大きな抑止力になると口を酸っぱくするようにいっている。知り合いがいるということは、いざとなったら大きな力だ。それこそが自治会・町内会の役割だと思い、参加してほしい、お手伝いもたくさんしてほしいといっている。でもなかなか来てくれない。それでも 3.11 が起こったために防災に対する意識は少しは高くなり、防災訓練はいつやるのかとか質問が来るようになった。でも、提言してくれるのはいいのだが、自治会・町内会は何やっているんだという話になるのであれば、町内はそれなりに頑張っているのだから、拒否する姿勢になる。そこをわかって提言されないと、チェックされてばかりの気分になる。自治会・町内会は本当に一生懸命やっている。

小塚委員 今後 20 年、30 年たてば、みんな年寄りになってしまって、誰も助ける人がいない社会が予想される。そういう予想の中で顔見知りの社会を作るとは本当に必要で、そのために何かをしておくことはやはり必要ではないか。

松本副部長 それはマンションに住んでいる人たちも、頭では分かっていると思う。でも現実的には行動を起こさない。で、なにかあった時には自治会・町内会文句をいってくる。それくらいなら一緒にやってくれと思うのだが、やってくれない。

辻野部会長 地域に根差した絆づくりの趣旨をきっちり示しながら、また自然災害部会が行うアンケートとうまく重ね合わせながら、コミュニティ部会のアンケートも行うということでしょうか。

石橋委員 それは一緒に行わないとバラバラではいけない。自治会・町内会が納得のいく形で考えないといけない。このテーマではどうしても自治会・町内会がターゲットにならない。

松本副部長 それはそうだと思う。だから私はこのテーマがクローズアップされて自治会・町内会にいろいろな人が参加してこないだろうかという気持ちだ。

戸高委員 アンケートに関しては今伺ったところ、アンケートをすることがプラスになるものでないと自治会・町内会にご迷惑になる。

辻野部会長 それは大義名分がきっちりしていればいい。安全安心の地域の絆を作ることを自然災害部会もコミュニティ部会も求めている。それは自治会・町内会も一致しているのだから、そこを念頭に置きながら協力してもらえるようにすればよい。

コンサル そうするとアンケートの内容はラジオ体操を聞くことではないということか。

辻野部会長 いやラジオ体操について大義名分が立つ形で聞く。

戸高委員 いや、ラジオ体操について聞くことは難しい。

石橋委員 ラジオ体操についてはやっているかやっていないかくらいを聞くことにとどめた方がよい。

戸高委員 いや今日の話では、ラジオ体操をやっているかいないかを聞くこと自体が難しいという感じがした。それを聞くことが自治会・町内会にとってプラスになるものでないと聞けない。

事務局 今後、あいさつ運動をするといっても、なにひとつとして具体的な手がかりがない。ただあいさつ運動の旗を掲げるしかない状態だ。その中で、ラジオ体操は縮小しているとはいえ、比較的世代が顔見知りになる手段ではあり、しかも体を動かして健康に寄与する運動でもある。これをターゲットにしてあいさつ運動を展開できないかと考えているという位置づけで聞くことが可能だろう。ラジオ体操は日本人ならだれでも知っているし、やるのにそれほどむずかしくない。それ以外のイベントだと知らない人がいたりして、難しい。その辺を大義名分として効くかどうかを次回検討するのではどうか。

それをやってみて、どうもアンケートをやるには厳しいということならば、そのときにやらないことにすればよい。

松本副部会長 もしアンケートをする場合は、町会の私や吉田委員が試しに先に回答してみることができるとよい。

辻野部会長 ではアンケート案は事前に町会関係者に見てもらって、やるやらないの結論を出すことにしよう。事務局からなにかあるか。

事務局 次回には10月の日程なども決めていかなければいけないだろう。

辻野部会長 では本日は時間を超過し、熱心な議論ありがとうございました。

2 スケジュール

次回第7回部会は、8月19日（月）18時から行うことを確認した。

以上